

ほんもく 横浜港本牧ふ頭再編事業 ~ - 15m耐震強化岸壁の建設 ~

受賞機関 国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所

はじめに

日本を代表する国際貿易港である横浜港は、コンテナ船の大型化と貨物の増大に対応するため、高規格大水深コンテナターミナルの整備を進めている。

本牧ふ頭は、A、B、C、Dの突堤に分かれた「くし形」をしていたが、高規格大水深コンテナターミナルとして再整備するために、水深 - 10mの岸壁であったB・C突堤間を埋立てて、突堤先端に新たに水深 - 15m、延長350m（1バース）の耐震強化岸壁を築造し、既存施設の再編・再整備を進めた。

事業の概要

施工場所：横浜港本牧地区 岸壁（ - 15m）

岸壁延長：350m

岸壁構造：栈橋式岸壁

「PC上部工 + 中間斜杭栈橋」

工事期間：平成12年4月～平成15年3月

対象船舶：60,000D/W級

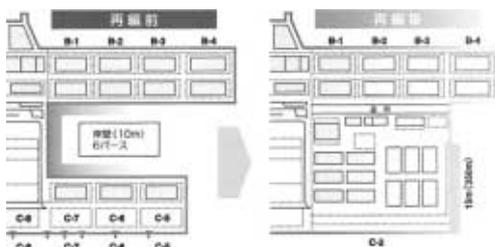
船長300m × 型幅40m × 満載喫水14m

総事業費：約78億円

事業の特徴

岸壁構造は、B・C突堤間の埋立法線を変えることのない栈橋式岸壁とし、工期短縮及び経済性を考慮した「PC上部工 + 中間斜杭栈橋」方式を採用した。栈橋上部工をPC構造とすることで、工期短縮を実現させた。

また、杭打ち施工はスパッド式の杭打ち船を用いて、稼働中の周辺岸壁に入出港する船舶への影響を極力減らした。



再編前



再編後

岸壁の前出し幅を40mとし、ガントリークレーンの基礎部も含め施工するとともに、既存先端護岸の背後については、静的締め固め工法及び深層混合処理工法（一部、既設クレーン基礎の保護のため）により地盤改良を実施した。静的締め固め工法では、既設舗装（コンクリート）の撤去材を改良材としてリサイクルし環境への配慮を行った。

また、この大水深コンテナ岸壁は、大規模地震対策施設として位置付けられ、地震等の被災時における緊急物資輸送と国際物流機能の維持を目的とした大水深・耐震強化岸壁として整備した。

この事業によって横浜港本牧ふ頭BC突堤間は、高能率クレーンの設置と、ふ頭用地の大規模化により、物流の効率化を図り、大型コンテナ船（対象船舶6万t）に対応した施設により、輸出入の物流コストを低減させ、横浜港のみならず日本の国際競争力を向上させるものと考えられる。

受賞賛助会員 (株)大本組横浜支店、国土総合建設(株)横浜支店、五洋建設(株)横浜支店、佐伯建設工業(株)横浜支店、(株)テトラ東京支店、東亜建設工業(株)横浜支店、東洋建設(株)横浜支店、若築建設(株)横浜支店